

37年ぶりの医学部設置へ！ 東北薬科大を“条件付き”で「選定」！

「運営協議会(仮称)」の設置など
付帯条件の対応を審査会が確認後、「設置認可申請」へ

旺文社 教育情報センター 26年8月29日

「東北地方における医学部設置認可に関する基本方針」(文科省・厚労省・復興庁：25年12月)に基づいて26年6月に設置された医学部設置に係る「構想審査会」(遠藤久夫座長・学習院大経済学部長)は8月28日第5回会合を開き、学校法人東北薬科大学(宮城県仙台市)が申請した「東北医科薬科大学—医学部医学科(※東北薬科大学から改称予定)」の設置構想を“条件付き”で「選定」した。

○ 構想審査会ではこれまで、上記の「基本方針」や「応募要領」(文科省：26年4月)に則って、

▶震災復興、原子力事故からの再生、超高齢社会における東北地方の医療提供体制の確保に関する認識、それを踏まえた医学部のミッション／▶「基本計画」として、設置者、設置場所、設立準備組織の体制等／基本的な教育方針と教育課程の概要／必要な施設設備、協力者等の確保の見通し／附属病院に関する計画／財源確保の見通し、組織全体の財務状況(計画)／教育・研究等における他大学、医療機関・団体等との連携／設置後の新設構想の履行、改善、充実を担保する仕組み等

について、設置候補者や関係団体等のヒアリングを含め検討、審査してきた。

○ 特に「基本方針」における次の4つの「留意点」と“フィージビリティ”(実行・実現可能性)を中心に議論したという。

<4つの留意点>

1. 東北地方の将来の医療ニーズを踏まえた教育等を行うこと。
2. 教員や医師、看護師の確保に際し引き抜き等で地域医療に支障を来さないような方策を講じること。
3. 大学と地方公共団体が連携し、卒業生が東北地方に残り地域の医師不足の解消に寄与する方策を講じること。
4. 将来の医師需給等に対応して定員を調整する仕組みを講じること。

○ 審査の過程で、設置候補三者(東北薬科大のほか、脳神経疾患研究所<福島県郡山市>、宮城県)のうち、東北医科薬科大学(私立)と宮城大学(公立)の設置構想に議論が集約され、最終的に東北医科薬科大学の構想を選定することが適切と判断された。

東北医科薬科大学は、最大被災地である宮城県石巻市で再建予定の石巻市立病院にサテライトを設置することなど、被災地の地域医療、災害医療に配慮した6年間のカリキュラム内容が充実し、医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応しつつ特色ある教育に対応した具体的な到達目標などが評価されたようだ。

ただ、同大の構想がより適切に対応されることを明確にするために、次のような7項目からなる“付帯条件”が提示されている。

<選定に当たっての条件>

1. “選定”後速やかに、東北各県・各大学、関連教育病院、地元医療関係者等の協力の下で、「運営協議会(仮称)」を立ち上げ、構想の実現・充実のために必要な協議を開始すること。
2. 東北6県全体の医師偏在解消につなげる枠組を確立し、仙台への医師の集中は避けること。
3. 早期体験実習から卒前・卒後を通じ、“地域全体で医師を育てる”観点から、「総合診療医」養成に積極的に取り組むこと。
4. 教員、医師、看護師等の確保について、地域医療に支障を来たさないことを担保する具体的な基準や指針を定めること。
5. 医師の東北地方への定着を促す修学資金の仕組みについて、宮城県等と制度を精査するなどして、地域偏在の解消に対して高い実効性をもたせること。
6. 入学定員については、地域定着策の有効性などの観点から、適切な規模になるよう見直すこと(例：臨時定員20名を設定せず、100名の定員で開学／学費全額相当の奨学金対象人数を増やすことなど)。
7. 当審査会における意見・要望を可能な限り採り入れ、東北地方における医学部新設の趣旨によりふさわしい大学とするよう努めること。

○ 今後の工程は、「運営協議会(仮称)」を立ち上げて上記のような付帯条件がどこまで対応できているかを構想審査会が確認する。

確認後、文科省の学部新設の審査ルールに則り、27年3月までに文科省へ「設置認可申請」を行う。同省は大学設置・学校法人審議会に諮問。同審議会の審議・答申を受け、文科大臣は27年8月に「認可」、28年4月に開学の予定である。

なお、構想審査会は、付帯条件が適切に対応されていることが確認されるまで、国は設置認可を行わないよう求めている。

設置が実現すると、医学部(医学科)設置は昭和54(1979)年の琉球大(国立)以来、37年ぶりになる。

○ ところで、東北薬科大については旺文社の『螢雪時代』(2014年4月)号の別冊付録「全国大学 医学部・歯学部・薬学部の総合的研究」で、高柳元明学長(東北大医学部卒、医学博士。日本私立薬科大学協会会長、日本私立大学協会副会長)の[インタビュー記事](#)を掲載している。

同大は昭和14(1939)年創設、現在は6年制の薬学科と4年制の生命薬学科を併設。

また、昭和34(1959)年の癌研究所(平成18年に「分子生体膜研究所」に改組拡充)の開設をはじめ、大学院修士課程・博士課程も全国の私立薬科大として初めて開設。さらに平成25年には、私立の単科薬科大として全国初となる附属病院「東北薬科大学病院」を開設している。

同大は、薬剤師養成に留まらず、生命科学の研究者、技術者養成も行っている。